

# 笑顔のために ~アデランスの社会に対する取り組み~

①産学連携

②スタジオAD

③フォンテーヌ緑の森の植林活動

④愛のチャリティ

# studioAD

<http://www.studio-ad.jp/>

## エンタメを支えるプロ集団

アデランスの文化芸能部門として30年以上の歴史を刻むスタジオADは、ヘアメイクはもとより、高いウィッグ製作技術で舞台や映画、ドラマ、コンサート、パリコレなどのファッションショーの文化事業を支えています。デザイン、フィット感、耐久性いずれも優れたウィッグは、今や日本のエンターテインメントに欠かせない存在です。

ミュージカル『マリー・アントワネット』（東宝製作）の開幕を1週間後に控えた9月上旬の福岡・博多座。衣裳や小道具が慌ただしく運び込まれる中、床山部屋にスタジオADのヘアメイクアーティスト、岡田智江さんと玉田秋恵さんの姿があった。2人を取り囲むのは、およそ100枚ものウィッグ。その製作だけでなく、公演中の劇場に常駐してヘアメイクやメンテナンスをする「本番付き」も重要な仕事だ。

「劇場入りは開演1時間前。終演後もウィッグの補修や洗濯があり、劇場を出るのが最後になることも少なくないです」（玉田さん）。本番中は舞台袖で待機し、数十秒でウィッグを取り換える。「時には『餓い殺し』と言って舞台上のセット裏に隠れ、暗転した隙に付け替えることもあります」（岡田さん）

スタジオADの設立は1985年。きっかけとなったのは、その2年前に日本初演があった劇団四季の『キャッツ』だった。当時、ミュージカルなどの激しい動きに耐えられるウィッグは少なく、困った劇団の担当者から相談を持ちかけられたアデランスが試行錯誤の末、丈夫で機能的なウィッグを共同で生み出した（現在、東京・大井町にあるキャッツ・シアターでロングラン上演中）。

「自然がかぶり心地がいいので、買い取りたいと冗談を言う役者さんもいるくらいです」（玉田さん）。「今後はミュージックビデオなども手がけてみたいですね」（岡田さん）。先人たちのチャレンジ精神は確実に受け継がれている。



『マリー・アントワネット』は、東京・日比谷の帝国劇場で11月25日まで上演後、名古屋・大阪でも公演



スタジオAD ヘアメイクアーティスト  
岡田 智江 Tomoe Okada

2004年入社。「フィガロの結婚」「エリザベート」など多くの作品のヘアメイクを担当し、「ロミオ&ジュリエット」などのスチール撮影にも参加している。

スタジオAD ヘアメイクアーティスト  
玉田 秋恵 Akie Tamada

2006年入社。年間9～10カ月は舞台の現場にいます。担当した作品は「グレート・ギャツビー」「天使にラブ・ソングを」「レディ・ベス」など多数。

